



安積山

郡山市立日和田小学校

学校便り No.64

令和3年1月25日

文責：校長 伊藤孝行

寒い時だからこそ見えるもの・・・

先週の冷え込みよりは緩みましたが今朝も氷点下を記録しました。しかし、その分空気が澄んで景色がきれいに見えました。



安達太良山も朝日を浴びて、今季一番の鮮明な姿を見せてくれました。

目に見える景色以外にも、寒い時だからこそ、寒さに負けない子どもの姿や精神力も見えてくるように思います。

子どもの[生意気]な態度にどう接しますか②

(①からの続き) 反抗期を迎えた子どもの態度は親からすると生意気に見えることがあります。

親から見ると「まだできるわけないのに…」と思うことでも、子どもは「できるもん！」と言い張ることがあります。

子どもがそういう行動をとる理由は「知らないことが多い」からこそです。

では、子どもが「できる」と言って始めたものの失敗した場合、どう対応するのがよいのでしょうか？具体的な例をもとに考えてみましょう。

◎ 難易度の高いジグソーパズル

子「このジグソーパズルおもしろそう買って。」

親「これは難しいので、まだ無理だよ。」

子「だいじょうぶ、できるもん。」

親「最後までやるんなら買うよ。約束だよ。」

～ ～ 最初は一生懸命にやっていたが ～ ～

子「むずかしい、つまんない、無理！」

親「だから、最初に難しいから無理って言ったでしょう。最後までやる約束なんだから、

やるんだ！やりとげなさい(´A´)」

子「できない、むずかしい(┐┐) (┐┐)」

親「約束を守らないんだから、もう何も買ってやりません。」

子「(┐┐) (┐┐) (┐┐) (┐┐) (┐┐)」

これは極端な例ですが、これに似たケースは珍しいことではありません。

こんなとき、子どもは色々と思っています。

子「あ～、失敗したかも」

子「お父(母)さんの言う通りだった」

子「きっと怒られるかも」

そこに親から、畳みかけられるよう「約束、約束」と言われたのでは、子どもは自分が悪いと思っても素直に謝ることができません。

こういった場面で、一番言ってほしくないのは

親「ほら、お父(母)さんの言った通りだろう」

親「いつも、お前はそうだよな」

親「どうせ、何をやってもだめだよな」

親の言葉を聞いた子どもは、反省の気持ちが吹っ飛び増々反抗を強めてしまいます。

失敗を子どもの成長の機会にするなら、子どもが「むずかしい、つまんない、もう無理」と言って投げ出しそうになった時、

「ここまで頑張ったんだ、えらいね。難しいところは手伝うから一緒にやろう。」

「今はできなくても大丈夫。簡単なものから練習して、力をつけてからもう一回チャレンジしてみよう。」



というように、子どもが頑張った点を認めたり、安心できる言葉をかけたりして自尊心を傷つけないことが大切です。

知識やできることが増えれば自己肯定感も上がります。また、大人の状況や考えを少しでも理解することで、反発心や生意気な口ぶりも減ってくるかもしれません。

子育てに100%正しい方法や方程式はありません。親も子供と同じように失敗しながら親として成長していくものだと思います。